

鹿児島県スポーツ・コンベンションセンター設計業務 仕様書（案） 骨子

1 仕様書の概要（基本設計・実施設計の条件等について定めたもの）

業務概要	整備地，施設の延床面積，設計期間，関係法令， 成果物（鳥瞰図，平面図等） 等
設計概要	設計に求める具体的な条件 等（PFI 方式では「要求水準書」）
添付資料一式	敷地図，地中埋設物図 等

2 業務概要の主な内容

(1) 業務条件

- 整備地
鹿児島市本港新町 4 番 16 及び 5 番 4，泉町 19 番 25 及び 19 番 26 並びに住吉町 14 番 2，
16 番 23 及び 16 番 25（ドルフィンポート跡地）
- 施設規模
延床面積 30,000 m²程度とする。
- 業務内容
スポーツ・コンベンションセンターの基本設計及び実施設計
試掘調査，測量調査，地質調査
- 設計期間
契約締結日から令和 10 年 7 月 31 日まで

(2) 設計に当たっての留意事項

- 工事費の縮減
工事費については，建設物価の高騰や事業スケジュールを踏まえ，工期短縮を考慮しつつ，コストの縮減に努めること。
- ライフサイクルコストの縮減
施設の長寿命化や維持管理のしやすさに配慮し，耐久性の高い材料の採用に努めること。
また，自然エネルギーの導入や雨水利用等を考慮し，施設全体の省エネルギー化を図ること。

3 設計概要の主な内容

(1) 施設構成

本施設の構成については、次のとおりとする。

区分	概要
メインアリーナ	フロアサイズ 3,726 m ² 以上 観客席 8,000 席以上
サブアリーナ	フロアサイズ 1,564 m ² 以上 観客席：500 席程度
武道場	フロアサイズ 841 m ² 以上 観客席：400 席程度
弓道場	近的 12 人立：875 m ² 程度，遠的 6 人立：852 m ² 程度 観客席：近的・遠的双方に 150 席程度
その他諸室	器具庫，更衣室，会議室，V I P 室，事務室，放送記録室，医務室，サービス，その他（トレーニング室，多目的室等）等
共用部を含む上記面積の合計：30,000 m ² 程度	
多目的広場	・気軽に運動やスポーツに親しむことができ，多様なイベントへの対応もできる多目的広場。 ・イベント開催時は臨時駐車場としても利用。 ・面積：9,000 m ² 以上
本施設用地内 駐車場・駐輪場	・自動車駐車場 100 台程度（事業者(従業者)用駐車場を含む） ・駐輪場及び自動二輪車駐車場：300 台程度

建物の高さについては，基本構想で想定している 30m 以下で計画するとともに，周辺環境への圧迫感の低減に配慮すること。

(2) 施設計画に関する主な設計条件

① 計画全般

設計に当たっては，基本構想に基づくとともに，「鹿児島港本港区エリアコンセプトプラン」及び「鹿児島港本港区景観ガイドライン」を踏まえること。

○ 利便性

- ・施設の運営を見据えて，一般利用及び各種大会の開催等の様々な利用に対応した機能的な動線計画とし，一般利用者，大会参加選手，大会関係者，観客等の動線を明確に区分した運営が容易な施設とすること。
- ・器具庫は，メインアリーナに直接器具を出し入れできる配置とすること。
- ・競技者の立場から，各競技の実施に適した照明・空調の整備や，更衣室の質の確保，円滑な大会運営に資する関係者動線等を計画すること。
- ・大会運営者の立場から，搬入搬出時の出入口・搬入スペースの確保やトラックでの直接搬入に対応するとともに，電源設備等の充実，メディアや V I P 対応等の関係者諸室を設計すること。

- ・ スポーツ利用に加え、電気音響を用いたイベントやコンサートの開催等を可能とするため、室外、屋外に対しての遮音性等に配慮すること。また、M I C E開催時には、開会式会場や展示会場等として利用できるように配慮すること。

○ 景観

- ・ 市街地からの桜島の眺望について、朝日通りや、みなと大通り、マイアミ通り、パース通りなどからの眺望に留意すること。また、海から見た市街地などの景観にも留意すること。
- ・ 桜島や錦江湾をはじめ、ウォーターフロントパーク、周辺の街並みとの調和を図り、外部空間全体の活用・建物の形状や単調な壁とならないような工夫など、通行する車両や人に対して圧迫感を与えない設計とすること。
- ・ 展望デッキ・スペースを設置するなど、来場者が桜島や錦江湾の眺望を楽しめる新たな空間を創出すること。

○ 地域性

- ・ 本施設においては、桜島や錦江湾、ウォーターフロントパークの景観と調和し、開放的で県民の憩いの場となるよう計画すること。
- ・ 本港区エリアの立地を活かし、施設利用者のみならず、県民や観光客が気軽に立ち寄り、回遊できるよう開かれた施設とすること。
- ・ アプローチ空間、エントランスや展望スペースなどを活用し、カフェやイベント等にも利用可能な交流スペースを設けること。
- ・ 整備地がある本港区エリアは、物販・飲食機能を持つ中心市街地と近接しているため、地域全体が発展するよう、本施設は、中心市街地との回遊性に配慮した動線とすること。
- ・ 県産材を活用した木質化や鹿児島港本港区の石蔵で使用されたような石材の活用など、地域資源を積極的に活用し、鹿児島らしさを感じられる施設とすること。
- ・ 県が保管する 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に提供したかごしま材（CLT 等）約 74 m²及び 2023 年の燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会のロイヤルボックスの内装に使用されたスギ板材約 146 m²を効果的に活用すること。
- ・ 本港区エリアの立地を活かし、施設のデザインや利用者等の動線に十分配慮した施設整備が行われることにより、同エリアの魅力が更に高まるような計画とすること。

○ ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザイン

- ・ 「スポーツ施設のユニバーサルデザイン化ガイドブック」(スポーツ庁, 令和 5 (2023) 年 3 月) に留意し、誰もが不自由なく安全に利用できるユニバーサルデザインに基づく設計とすること。
- ・ 高齢者や子ども、障がい者、性的マイノリティなどを含む利用者全員が心地よくかつ同様に本施設を利用できるよう、インクルーシブデザインの考え方にに基づく設計とすること。
- ・ 車いす使用者用の観客席への誘導動線は、利便性に配慮すること。
- ・ 授乳・搾乳やオムツ替えのスペース、幼児用トイレ等を設けるなど乳幼児の利用に配慮すること。

- ・ キッズルームを設けることとし、保護者等による見守りスペースの設置や内部が見守れるような構造とすること。
- ・ 利用者がトイレの空き状況がわかるよう工夫することとし、イベント時には男女比率を変更できるようにすること。
- ・ 多目的更衣室を設けることとし、性別にとらわれず、障がい者とその介助者などが同時に利用できる規模で、独立して2室以上設置すること。

○ 環境負荷低減性

- ・ 「鹿児島県庁環境保全率先実行計画」を踏まえ、ZEB Ready 相当とすること。また、建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）の認証を取得すること。
- ・ 様々な再生可能エネルギーの活用や省エネルギー性に優れた設備の導入等により、環境面にも配慮しながら、ライフサイクルコストの低減に資するようにすること。

○ 防災性

- ・ 地震や台風、豪雨など自然災害が頻発する中で災害発生時における対応施設として、例えば避難所としての活用も考えられることから、想定される災害に十分対応できる施設とすること。
- ・ 整備地については、敷地のごく一部が0.5m未満の洪水浸水区域に含まれていることから、浸水・冠水対策に十分配慮すること。
- ・ 大空間で大人数を収容する施設として、十分な耐震性を確保すること。
- ・ 燃えにくく有毒ガスを発生しない内装材を使用するとともに、諸室の用途に適した防災・防火設備を設置すること。
- ・ 風害・雪害による施設本体及び周辺への影響を最小限にすること。
- ・ 建物及び部材の強度を適切に確保し、電子・通信機器、電力・通信線にも、落雷の影響がないよう防護すること。
- ・ 降灰による屋根面のドレーンや樋、外構部の雨水排水などメンテナンスしやすい計画とすること。
- ・ 受変電設備や空調機など重要設備器機は、室内設置とすること。室外に設置する機器については重耐塩仕様とすること。建築仕上げ材についても、十分な塩害対策を施すこと。
- ・ 建物内外について、災害時の避難動線を確保し、利用者の安全を守るとともに、緊急車両の動線や寄り付きにも配慮すること。

○ その他

- ・ 県民意見等の聴取
ワークショップの開催など、設計を進める上で県民や施設利用者等の意見を聴取する機会を設けること。
- ・ 暫定活用に伴う関係者との調整
整備地は、イベントスペース等として暫定活用していることから、業務の実施にあたっては、県が行う利用者との調整に協力すること。

② 建築計画

- ・ 本施設の配置は、基本構想を参照すること。同構想では配置計画のイメージを示しており、景観への配慮や多目的広場の機能など、本仕様書を満たした上であれば、配置は設計者の提案とする。
- ・ メインアリーナとサブアリーナを同時に利用することにより、1日で多数の試合を行う必要がある全国大会等の大規模スポーツ大会や中学・高校・県民レベルの各種スポーツ大会、コンサートなどの大規模イベント等の開催を可能とすること。
- ・ 利用者や来場者が通常利用する諸室（エントランス等含む）については、県産材を積極的に活用すること。
- ・ 天井高さについては、競技面の全ての位置で新体操やトランポリンなどを含む各種競技に対応するとともに、大型映像装置の設置も想定した高さとする。
- ・ 吊り荷重は、大型映像装置や照明、音響設備等の設置を想定した荷重とすること。
- ・ 競技フロアの分割利用を想定し、天井収納式電動間仕切（2分割以上）を設置すること。
- ・ 大会・イベント主催者の利便性を確保するために、電源設備等を充実させること。
- ・ 音響対策に十分配慮し、残響が少なくなる工夫を適宜行うこと。
- ・ メインアリーナの床については、スポーツ利用に最適で、コンサート・イベントなど多目的利用においても機能的であり、耐久性に優れた仕様とすること。また、大型車両（11tトラック以上）での直接搬入が可能な床構造（集中荷重5t以上）とすること。
床仕上げは、体育館用長尺弾性塩ビシートとすること。床下地の構造は、事業者の提案とする。ただし、コンクリートスラブに直接体育館用長尺弾性塩ビシートを敷設することは不可とする。
- ・ 大規模イベントの観覧者の休憩時等の滞留に係る安全性を考慮し、十分な滞留空間を確保するためのコンコースを設けること。
- ・ スポーツ・コンベンションセンターに四方からアクセスできるよう、施設を囲むアプローチデッキを設けること。

③ 構造計画

○ 耐震安全性

建築基準法のほか、「官庁施設の基本的性能基準及び同技術基準」、「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」に基づき、耐震安全性を確保すること。

○ 基礎構造

建物や工作物が液状化による不同沈下等を起こさない基礎構造及び工法を採用すること。